実践例　二わの　ことり（教科書P.75-79）

	学習活動（主な発問と児童の反応）	指導上の留意点
1	**▶友達についての考えを出し合う。** **○友達とはどんな人のことだと思いますか。また、友達は多いほうがいいと思いますか。** ・いっしょに遊んでくれる人。優しい人。 ・連絡先を知っている人。 ・なんでも話せる人。 ・友達は多いほうがいい。 ・「本当の友達」は、自分のことを心配してくれる。	・現時点の友達についての考えを出し合わせ、学級全体で共有した。 ・「いっしょに遊ぶ人」といった表面的な発言が出やすいと予想していたが、実際に発言があったので、共感的に受け止めた。相手を思いやる気持ちなど、内面に関わる発言が出たときは、意図的に共有したい。
	テーマ　**ほんとうの　ともだちとは、なんでしょう。**	
2	**▶「二わの　ことり」を読んで、話し合う。** **①音楽会の練習に参加しているみそさざいは、どんな気持ちだったでしょう。** 〈まあまあうれしい〉 ・音楽会の練習ができてうれしい。でも、やまがらのうちに行くか迷ったから、ちょっと困った気持ちもある。 〈ちょっとだけやりたい〉 ・音楽会の練習に参加したいな。	・挿絵を示しながら、P.77L.4まで教材を朗読した。 ・教材理解が難しい児童には、挿絵に注目させながら再度簡単に内容を説明した。 ・スマイルメーターを使って、みそさざいの気持ちを考えさせた。何名か指名して、どうして「まあまあ」「ちょっとだけ」なのか、程度に着目して理由を発表させた。 ・うぐいすの家に来てしまったものの、みそさざいには迷いがあることを学級全体で確認した。
	②一羽で誕生日会をしているやまがらは、どんな気持ちだったのでしょう。 〈すっごく悲しい〉 ・独りぼっちで、悲しい。友達がいない。 〈すっごくやりたくない〉 ・みんながいない誕生日会はやりたくない。	・最後まで教材を朗読してから、スマイルメーターを使ってやまがらの気持ちを考えさせた。 ・次の発問で考える際のヒントとするため、スマイルメーターの画面は消さずに残しておかせた。 ・その気持ちを選んだ理由まで答えられない児童がいる場合は、周りに補足説明できる児童がいないか声をかける。
	③最後の場面で、二羽の小鳥は、どんな気持ちになったでしょう。 ・うれしい。　・楽しい。 ・みそさざいが来てくれたから、うれしくなった。	・「うれしい」「楽しい」など、表面的な理解にとどまる発言があったので、やまがらがうれしくなった理由や二羽が仲よくなれた理由を問い返した。 ・発問②で、スマイルメーターの画面を残しておいたので、やまがらの気持ちの変化を考えることができた。
	中心的な発問 **④二羽の小鳥は、「本当の友達」になれたのでしょうか。** 〈なれた〉 ・「友達」より上の「親友」になれた。みそさざいは優しいし、やまがらのことを心配していたから。 〈なれていない〉 ・まだわかり合えていないので、「本当の友達」ではないけど、誕生日のお祝いに来てくれたのはうれしい。 ・友達になったばかりだから。	・発問②と発問③で、みそさざいが来たことによって、やまがらが笑顔になったことをしっかりと押さえてから発問した。 ・友情について考えるのが本時の目的のため、「本当の友達」になれたかどうかに対する答えは多様であってよい。
3	**▶導入を振り返りながら、教師の投げかけを聞く。** **○これから二羽の小鳥は「本当の友達」になれるでしょうか。**	・導入で考えた友達の定義を振り返らせながら、これから二羽の小鳥は「本当の友達」になれそうかと投げかけた。